

今なぜ起業が必要なのか

2 学年人文社会講演会報告

- ◇期 日 : 5 月 29 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 35
◇場 所 : 至誠ホール
◇参加者 : 2 学年普通科文系・人文社会科学科 97 名



神戸大学産官学連携本部教授 アントレプレナーシップセンター長の熊野正樹先生に、「スタートアップと学生起業 ―若者のイノベーションへの挑戦―」と題して講演していただきました。

かつてスタートアップで作られた日本企業は世界を牽引していましたが、いまや世界に名を轟かせるのはアメリカです。日本で起業が停滞していた間に、アメリカでは大学生によって世界で知らぬ者のない大企業が多く作られたのです。従って今、日本には新しい風が必要であり、政府や自治体、東京大学、京都大学等の有名大学でも、起業が奨励されているそうですが、多くの人は「責任を一人でするのは怖い」と起業のリスクを恐れてしまいます。しかし、十分な準備があればそういったリスクの9割は削減でき、スタートアップでは融資による資金調達ではなく、ベンチャーキャピタルからの投資を期待するべきだと、先生はおっしゃっていました。現在、学生の起業のために多くの大学で「起業部」がつけられています。先生は、学生が起業の仕方や失敗しない方法を学びながら、活動の最終的段階ではベンチャーキャピタリストの前でプレゼンテーションを行って資金の調達を目指すという取り組みは、将来起業を行うにあたっての最良の道となると、普段から「起業部」を指導なさっている立場から説明していただきました。

先生が講演を通して強調していらっしゃったことは「挑戦すること」です。起業は社会と自分自身に対する挑戦であり、社会の問題や矛盾を新しい視点からとらえなおし、世界をよりよく変えようとする、自分自身の才能を拡張し、広い世界に自分をさらすことである、生きる意味も人生の目的も現実の生なくしては空虚な議論に堕するだろうと先生は力説なさいました。

講演では、生徒同士が話し合う時間があったり、先生自らが生徒の1人1人に問いかけられたりしたので、起業について深く知り、考える機会になりました。現実に妥協せず、私も学習や部活動だけでなく、ボランティア活動や様々な体験活動に積極的に取り組んでいきたい、そして、漠然とした将来のビジョンの中に、起業という新しい希望が生まれたことを喜びたいと思っています。

